

生活単元学習指導案

指導者 小野村 晃太

日時 令和4年5月17日(火) 第6校時(15:00~15:50)
年組 中学校第1学年3組 計4名
場所 第1学年3組教室
単元 東雲のまちを描こう

単元について

本学級は、知的障害特別支援学級であり、男子4名から構成されている。4名とも県内の公立学校から入学しており、4月から公共交通機関を利用して通学している。生徒の実態は、言葉で自分の意見を相手に伝えることは上手だが、握力が弱く書字が難しい生徒や、自分の想いはあるが、相手の発する言葉の理解に時間がかかり、うまく伝えることができない生徒、空間認知能力が低く、忘れ物や落とし物の多い生徒、自己肯定感が低く、集団の中では発言することが難しくなる生徒等、さまざまである。入学して1か月程度経つが、お互いに共通の趣味を見出す部分はありつつも、休憩時間等互いに自ら関わろうとする様子はまだまだ見られない。また、4月に行った係決めの際の話し合いでは、意見が被りなかなか一人を選出することができず、お互いに悩みながら、最終的には生徒だけで結論を出すことが難しかった。

本単元では、通学路散策を通して次の2つのことを狙うことができる。1つ目は、普段何気なく歩いている通学路に、複数の(友達)の視点を与えることで、町に特徴的な自然環境や産業、課題について気づくことができる。東雲の町の自然、産業、課題について知ったり、発見したりすることで、東雲の町を身近なものとし、この町で学ぶ意欲につなげたい。また、後の単元で扱う防災や、総合的な学習の時間の取り組みにもつなげていきたい。

2つ目は、友達がどんなどころに注目しているか知ったり、協力して地図を完成させたりすることで、友達や、友達と関わることに興味を持ち、自ら人と関わろうとする意欲や態度を引き出すことができる。学習の中で相手の想いや気持ちを知り、人との関わりに楽しみや嬉しさを感じさせたい。また同時に、意見をまとめる難しさを実感し、様々な意見のまとめ方について学んだり、相手の意見を尊重したり、折り合いをつけるといった学びにもつないでいくことができる。

指導の際には、先の2つのねらいを達成するために、生徒同士が意見を交えやすい机の配置や写真の扱い方(紙で渡す、黒板に掲示する等)を工夫する。また、こちらからの言葉がけをできるだけ減らすよう意識的に指導する。

指導目標

1. 東雲の町の特徴(自然環境、産業)を理解させる。
2. 撮影した写真から、共通点を見出し、東雲の町の特徴や課題に気づかせる。
3. 友達の視点に興味を持ったり、協力して地図を作ったりする意欲や態度を引き出す。

指導計画（全 10 時間）

1. 東雲の町を描いてみよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間
2. 学校の周りを歩いてみよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3時間
3. 東雲の町の特徴や課題を見つけよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3時間（本時 2 / 3）
4. 自分たちの東雲地図をつくろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間

本時の目標

友達が撮影した写真に注目し、気になる写真を見つけ、理由をつけて友達に伝えることができる。
互いに意見を出し合いながら話し合い、仮地図を作製することができる。

本時にかかわる生徒の実態と個別の目標、支援

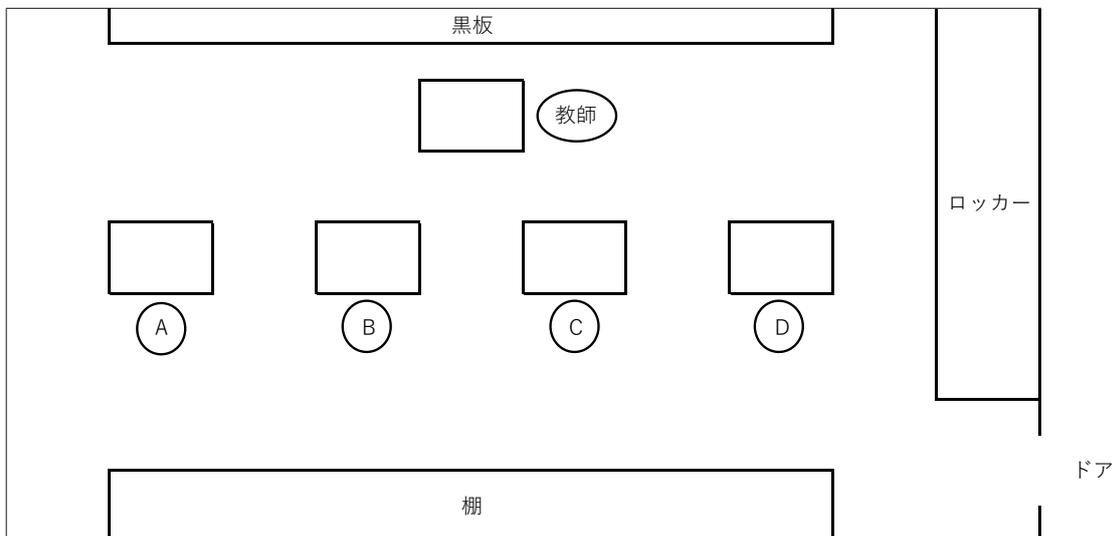
生徒	本単元に関わる実態	個人の目標（本時）	目標達成のために考えられる手立て
A	話し合いの中で、自分の意見を主張することが得意である。握力が低く書字が難しい。	複数の写真から、自分の気になるものを選択し、自分の考えをキーワードでまとめることができる。	書いてまとめるのではなく、実際の写真を操作することで、考えをまとめたり、伝えたりしやすくする。
B	たくさんの情報を伝えることができるが、思いついた順に話すことが多い。	自分が撮影した写真を、要点を整理して相手に説明することができる。	事前に撮影するときに、その都度撮影した理由を本人に問いかけて、事後に整理できるようにする。
C	口頭での指示理解が難しく、話し合いでは自分から主張せず友達の意見に賛同して済ませることが多い。	友達の撮影した写真に注目し、話し合いの際には、自分が何をやるのかわかって動くことができる。	話し合い活動の前に、自分で写真を選択しておくことで、話し合いの際に自分の担当がわかるようにする。
D	集団の中で、自分の意見を言葉にして伝えることに苦手を感じている。	発表の場面で、自分の気になった写真を、理由といっしょに言葉で説明することができる。	実際の写真を扱い、補足的に言葉で説明できるような環境をつくる。

学習の展開

学習活動と内容	○指導上の留意点（◆評価）
1. 導入（10分） <input type="checkbox"/> 前時までの振り返りを行う。 2. 展開（35分） <input type="checkbox"/> 前時に歩いたコースを担当したグループから、撮影した写真を紹介する。（生徒 A, B）	○活動の目的・目標を確認する。 ○前時までの活動を振り返ることができるように、必要に応じて写真・動画を用いる。 ◆自分なりの視点をもって撮影した写真を紹介している。【思考・判断・表現】 ◆意欲的に友達の発表を聞いている。

	【主体的に学習に取り組む態度】
【課題】 撮った写真の中から、自分が気になる写真を3つ選び、理由を書いて発表する。	
<input type="checkbox"/> 生徒 A, B が撮影した写真の中から自分が気になったものを3つ選択する。 <input type="checkbox"/> ワークシートに気になった理由を書く。 <input type="checkbox"/> 発表する。 <input type="checkbox"/> 模造紙の上に、生徒が選択した写真を話し合いながら配置する。(仮地図作り) 3. まとめ (5分) <input type="checkbox"/> 振り返りと次時の学習内容の確認をする。	◆複数の写真から、自分が気になる写真を選び、理由を書くことができる。 【思考・判断・表現】 ○撮影した写真をプリントアウトしておき、机上で生徒が操作し分類しやすいようにする。 ◆自分の意見を言葉にして、友達に伝えることができる。 【思考・判断・表現】 ◆4人で話し合い(意見を出し合い)ながら、写真を地図上に配置しようとしている。 【思考・判断・表現】 ◆東西南北がわかって地図上に写真を配置している 【知識・理解】

座席配置図



授業分析

単元構想

本単元は「町探検」「地図作り」の活動を通して、以下の3つのことを狙っている。

- ① 他者との良好なコミュニケーションのきっかけ
- ② 生徒一人一人の地理認知の把握及び認知の拡大
- ③ 他教科等とのつながり

①に関して、時期は入学して1か月、生徒は互いに共通の趣味を見出す部分はあるつつも、自分から話しかけたり、自分の思いを伝えたりできず、休憩時間にはそれぞれが教室の中を歩き回っているという実態であった。

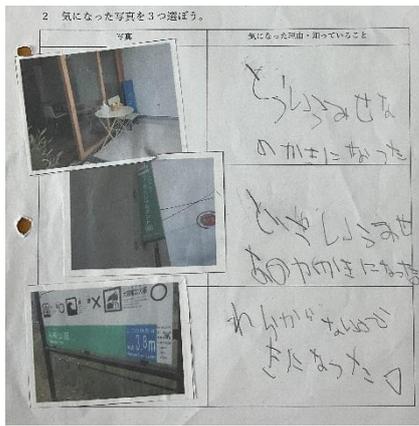
②に関して、生徒はそれぞれ公共交通機関を使用して通学しており、学校のある東雲の町についてあまり馴染みはない。その中で、彼らが東雲の町を知る数少ない情報源である通学路を、どのように認知しているのかについての実態把握と、その認知の広げ方を探ることを目的とした。

③に関して、他教科等、特に総合的な学習の時間とのつながりを意識している。本校の総合的な学習の時間では、第1・第2学年で広島市を対象に、第3学年で広島県を対象に調べ学習を行う。その前段階として、東雲の町について学習しておくことで、段階的に対象の規模を広げていきたい狙いがある。

今回は、この中から①、②について授業分析を行う。また、本授業では①と②を狙うにあたって「他者（友達）の視点の共有」を意識した。具体的には、町探検に行く際に、生徒一人一人にカメラを持たせ「自分が気になるものを自由に撮ってみて」と投げかけた。そうして撮影された写真（他者の視点）を用いて授業を展開した。

授業中の生徒の様子

①に関して、生徒が互いにコミュニケーションを行う場面は「撮影した写真の紹介」「興味・関心のある写真の発表」「仮地図作成」の3つあった。「撮影した写真の紹介」では、1番に紹介した生徒Aは自分の発表に自信がなく、教師の方を見ながら発表する様子であった。ここでは、発表順を工夫して先に生徒Bの発表を生徒Aがモデルとして見ておくことで、自信をもって発表することができたかもしれない。一方で「興味・関心のある写真の紹介」では、4人が理由を合わせて発表することができた。これは、事前にワークシートを用いて自分の考えをまとめることができていたからだと考えられる。次頁に使用したワークシートを載せる。また、「仮地図作成」の場面では、写真を持ち寄って、「これはここ」「そっちじゃないよ」「う～ん」と、それぞれの思いや考えを、表現の仕方に違いはあるが、活発に交流させていた。これは、授業後の休憩時間中も続き、最後は今日の帰りに確認して次の日報告するように、ということでも落ち着いた。



生徒 A



生徒 B

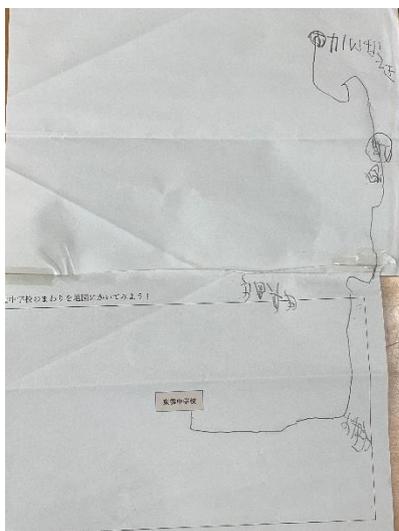


生徒 C

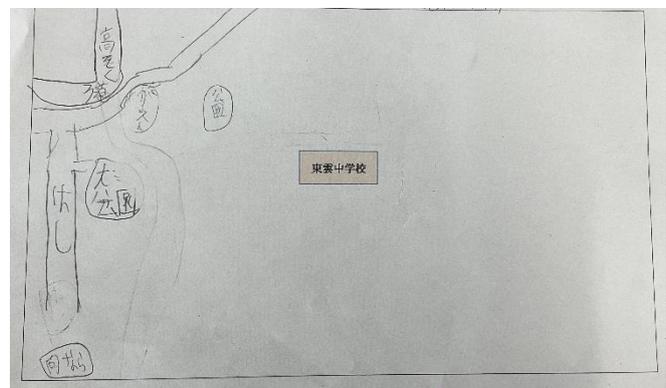


生徒 D

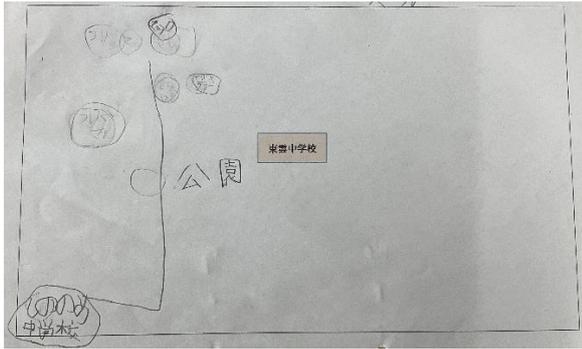
②に関して、本授業ではこれに関連する「撮影した写真から共通点を見出し、東雲の町の特徴や課題に気づく」という指導目標まで達成できなかった。そこでここでは、②に関連した「仮地図作成」の場面を取り上げる。この場面では公園の場所を巡って生徒の意見が2体2にはっきりと分かれた。このうち一方は正解であった。このことから、彼らの「公園」についての認知に違いがあることがわかる。また、以下に単元の1時間目に生徒が描いた東雲の地図を示す。



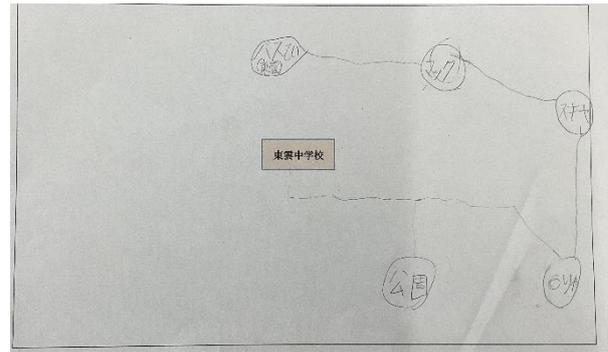
生徒 A



生徒 B



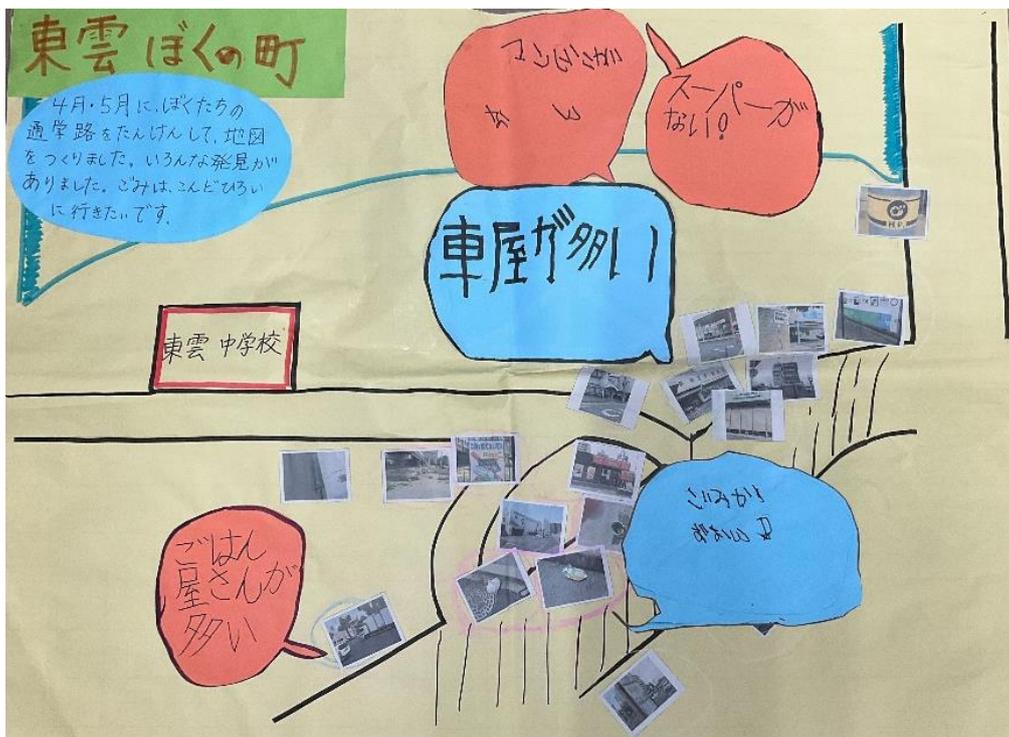
生徒 C



生徒 D

それぞれ生徒 A と B, C と D がそれぞれ同じ駅、バス停を使用しており、ここではその駅もしくはバス停から中学校までの道のりを作図させた。このうち、本時の授業で公園の場所を正確に答えたのは生徒 B と D である。それぞれの地図を比較すると、生徒 B のみ、道を線ではなく面で捉えて書き表している。また、地図上に現れる要素（建物や施設等）は、A は 3 つ、B は 6 つ、C は 2 つ（本人が消したものと東雲中学校を除く）、D は 5 つと、大きな差ではないが、正解した生徒 B と D が作図したものの方が、生徒 A, C が作図したものよりも要素の数が多かった。

また本授業ではないが、以降の授業で写真の共通点や町の課題について意見を出し合い、地図にまとめていった。共通点や課題として彼らが見出したのは「スーパー」「コンビニ」「ごはん屋さん」「車屋」「ごみ」の 5 つである。始めの 4 つは、生徒の話し合いの中から出てきた気づきである。比較的生徒自身に関わりのあるものが多い。一方で「ごみ」に関しては、町探検の最中から出てきた気づきである。始めは生徒 C が気になって写真を撮影し、その後 4 人全員がごみを注目するようになった。話し合いの際の気づきとしても一番に挙げられた。



作成した地図

本単元（授業）の成果と課題

本授業は「他者（友達）の視点の共有」を意識し、方法として生徒自身が撮影した写真を用いた。その結果、①に関しては、友達と自分が同じ所に注目していることに気づいたり、仮地図作成ではみんなで写真を操作しながら、自然に意見を交流したりすることができた。この授業を一つのきっかけにして、生徒同士のコミュニケーションが増えていった。②に関しては、本授業では仮地図作成の場面から、生徒の地理認知に差があることが分かった。また、本授業では建物や施設の位置に関する議論に留まり、指導目標にある「撮影した写真から、共通点を見出し、東雲の町の特徴や課題に気づく」まで達成できなかった。これ以降の授業で4人が東雲の町を作図する際に、お互いの意見を聞いたり実際に見に行ったりしながら、共通点と課題を見出し完成させた。しかしこの地図作成の際に見出した共通点や課題も「ものの多い・少ない」というものに留まっている点は反省点である。「他者（友達）の視点を共有」することで、彼らの地理認知がどのように変化したか（またはしていないか）、継続的に見ていきたい。